

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお気付

[kaneko@max.hi-ho.ne.jp](mailto:kaneko@max.hi-ho.ne.jp)

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2019年 9月 3日 1135号



## 9月議会が始まる

### 一般質問は10日から

9月の定例議会は3日に開会し27日までの25日間と決まりました。

今回の議会では19名の議員が市政全般にわたり一般質問が行われます。

### 金子かずお議員の質問内容は

9月議会で金子かずお議員は、①ふるさと納税について ②児童発達支援センターについて ③児童館について執行部の考えを質します。

#### ◎ふるさと納税について

##### 質問趣旨

ふるさと納税とは、我が国に於ける寄附金税制の一つであり、納税という名称ですが、制度上の実態は「寄付」であります。ふるさとや応援したい任意の自治体に寄附ができる制度で、手続きをすると、所得税や住民税の還付・控除が受けられます。多くの自治体では地域の名産品などのお礼の品もいただける仕組みです。2018年度のふるさと納税の寄付額の全容が総務省から8

月2日に示されましたが、つくば市の現状について伺います。

#### ◎児童発達支援センターについて

##### 質問趣旨

つくば市福祉支援センターでは、心身の発達を促す親と子の児童発達支援事業が行われています。療育のねらいは、母子通園で「情緒の安定を図る」「感覚、運動機能の力を育てる」「日常生活習慣や自立への基礎作り」する「対人関係の発達を促す」としています。近年の法改正により市内には、民間の事業所が多く存在し、対象年齢や利用サービス等の違いが見られます。つくば市は、児童発達支援センター構想及び事業について検討に着手していますが、その進捗について伺います。

#### ◎児童館について

##### 質問趣旨

去年は、西日本を中心に記録的な大雨となったが、その後は太平洋高気圧の影響で晴れ、厳しい暑さが続きました。7月23日に埼玉県熊谷市で日本歴代最高気温の41.1℃を記録するなど、全国的に記録的な高温となりました。今年も昨年と同様に連日の暑さが続きましたが、その中で夏休み中の児童対策としての児童館の役割は大きいものがあります。以下について伺いたい。

- (1) 児童館の暑さ対策の対応。
- (2) 現在増設中の施設での暑さ対策は対応されているのか。
- (3) 今後の児童館の暑さ寒さ対策。

## 斎藤環・筑波大教授に聞く



### 家庭内暴力、止める方法あり③

#### 通報や避難の前に、予告する

——通報や避難の手順は？

通報や避難をする際は、いきなりではなく、予告段階を設けてください。「今度やっちゃったら、通報しますよ」「避難しますよ」と予告しておく。これで止まるケースもたくさんあります。その瞬間は怒っても、手は出て来ない。本人は、「親がそこまで嫌がっているとは思わなかった」とびっくりします。逆に言うと、それまできちんと拒否されてこなかった人が多いということです。拒否のメッセージとして、まずは通報・避難の予告をしてください。

一番やってはいけないのは、「暴力を受け入れること」です。かつて、カウンセラーや支援者の中で、全てを受け入れる「全受容」ブームというのがあった。「暴力は愛を持って受けとめましょう」という考え方ですが、これは間違っています。根拠ありません。結果として、ほんの一握りの人でうまくいったケースがあり、すべて受け入れたら、本人が反省し暴力をやめてくれた、という実例があるようです。ただ、それよりもはるかに多い割合で、受け入れた結果、トラウマになり、文字通り心身ともに傷だらけになって、耐えられなくなって、子殺ししてしまう、というケースがありました。

#### 暴力を振るわなくてすむ状況を作る

私の考えは、引きこもりやその苦しさに関しては、受容が基本です。ただし、すべての人は暴力を受けない権利がある。なぜか親子関係になると、このルールが適用されなくなるという不思議な現象が起こっています。子からの暴力に対しても、毅然として拒否をしてください。

——「暴力を封じたら、別のところで暴発する」という心配はないでしょうか。

それはないと断言できます。暴力はエネルギー保存則が適用できるものではない。むしろ暴力を振るわない状況にするほうが、早く安定します。暴力を振るわなくてすむ状況を作ってください。

——どうすればいいですか？

第一は、拒否です。「簡単じゃないか」と言われるかもしれませんが、これが一番難しい。なぜか。両親、特に母親には、非常に強い罪悪感があるからです。「うちの子がこんなに苦しんでいるのは、私のせいだ」

「私は罰せられるべき人間だ」という思いがあり、つい暴力に身をさらしてしまう。

「自分に対する罰だから、受けなくてはいけない」と無意識に思って断れない、ということがしばしば起こります。

しかし、それは非常に不健全な関係です。もっと普通の関係を作り直してください。暴力は受けなくていい関係です。

暴力には一瞬の爽快感があるのも、また問題です。一瞬の爽快感がある行為は、中毒になりやすい。殴ってしまうと、ちょっと気持ちが軽くなる。もちろん、その後反省するのですが、このはかない爽快感を求めて暴力がエスカレートしていく。

拒否が難しい、もう一つの理由に、日本の親子関係では「拒否」はほとんど使われず、「禁止」が使われることがあります。「暴力を拒否してください」というと、ほとんどの親は子どもに「暴力はダメですよ」と言うってしまう。（つづく）